



集落活性化県民討論会

2010年11月19日



福島大学Cプロジェクト（福大までいプロジェクト）

目次

- 1 飯舘村佐須地区の概要**
- 2 活動内容の検討**
- 3 地域との交流と学生の活動の企画**
- 4 街なかマルシェでの活動**
- 5 まいでいな休日でのとりくみ**
- 6 まとめ**

1-1. 飯舘村佐須地区の概要・課題

3

飯舘村

- 福島県の東北部、阿武隈山系の農山村
- 標高220~600m、夏は涼しく、積雪は少ないが厳しい寒さ
- 人口：6,160人（2010年11月現在）
- 世帯数：1,706戸
- 面積：230.13km²

佐須地区

- 20行政区のなかで最北端に位置する
- 人口：255人（2010年8月現在）
- 世帯数：66戸

地域課題

集落の高齢化率：30.98%
高齢化、過疎化の進行
地域の活力の低下
農業の衰退

1-2. 佐須地区の地域づくり 「までいな休日」

4

□ 都市と農村の交流イベント

□ 目的・特徴

- ・ 地域を元気にしたい
- ・ 地区のみんなが楽しむ、都市の人々も一緒に楽しむ
- ・ 地区住民が事業を企画・実施
- ・ 地区の一大イベントである「農業祭」との同時開催

「までい」:地区の方言
「まごころを込めて」「大切に」「じっくりと」

□ 住民からの反省・課題

- ・ 参加者の増加と内容の拡大
- ・ 交流の継続性（やめるとすぐに廃れてしまう）
- ・ 交流からの農産物・加工品の販売拡大

2-1. 活動内容の検討

5

地域づくりが盛んな飯舘村佐須地区

さらに地域を元気づけるために、学生ができることとは？

- 佐須地区のPR
- 佐須地区の魅力を探索、活用！
⇒ 農作物・田舎料理・自然景観・伝統文化



までいな休日＝都市住民が農村へ
学生の提案＝農村住民が都市へ赴き、交流
する機会を作ってみては？

2-2. 活動内容の提案

6

- 佐須の農産物…「安全安心」「低/無農薬」「手づくり」「無添加」
⇒都市で「食」への関心が高まる中、これらの特徴が「魅力」へ
- 「都市」で都市住民の反応に触れる機会の創出
⇒地区の農作物・加工品の販売を通じて
- 学生がつくる「都市と農村の交流」の機会
⇒農作物・加工品、「までいな休日」、「までいライフ」
⇒佐須地区を福島市に広くPRしたい！

農家レストランの
構想！？

3-1. 地域との交流

7

実際にできることを地区の住民と見つけていく

- 佐須地区グランドゴルフ大会
- 「までいな休日」実行委員会（計4回）
 - 地区住民：男12名、女4名、行政区長1名 計17名
 - 福大生：男3名、女4名 計7名
- 飯舘村佐須地区調査合宿：2010/08/20(金)～21(土)
 - 戸別訪問による地区住民の意識調査、飯舘村役場への聞き取り調査、
 - 地域資源探し（“あるもの探し”）

住民との交流を通して見えてきた
地区の課題とは…？

3-2. 地域の不安・課題

- 地区を過小評価し、自信をもてない傾向
- 新たな取り組みへの不安
直売所での苦い経験…佐須地区のPRよりも、農産物の販売に意識がおかれていた

背景

- 農業従事者の高齢化/後継者不足
⇒ 農業経営の悪化、販路拡大の必要性
- 若い世代の地域活動参加への消極性
⇒ 若い世代にも地区の取り組みに関心を持ってほしい！

3-3. 地域との活動方針

9

- 佐須流（までいな）の取り組み
⇒「できることから、あわてず、じっくりと」
- まずは佐須地区のPRを一番に
- 佐須の魅力を伝える良い方法とは…
⇒豊かな自然、おいしい野菜に料理、住民の温かさ…
学生からするととても魅力的な地区。
地区の魅力を見直してもらいたい！
自分たちの活動に自信をもってほしい！



広く地区のPRができる活動の検討！

**※様々な人々と交流のなかで、
地域の良さを伝えられるイベントはないか？**

4-1. 「街なかマルシェ」の参加

10

街なかマルシェとは…

- 主催者 福島大学小山ゼミナール学生による株式会社
- 趣旨 過疎中山間地域と都市部の活性化
「地産地消から地消地産へ/ふくしまstyle」の
提案推進
- 特徴 町の中心部で、消費者と直接ふれあう
商品の販売から生産の担い手を知ってもらえる



「都市と農村の交流」、地域自慢の農産物の
販売を通して地区のPRが可能

4-2. 「街なかマルシェ」での活動

11

- 開催日
2010年10月10, 11日(日・月)
- 販売品
地元産の野菜や花、加工品
※二日目のみ芋煮の販売
- 佐須PRリーフレット作成・配布(配布資料参照、171/200配布)
- 商品提供者 18人
- 当日の地域参加者 4人
- 売上金合計 89,175円



4-3. 街なかマルシェの成果

12

- 「顔の見える」商品のやり取りの大切さ
都市住民 無農薬・低農薬農産物への関心の高さ、商品情報を求める傾向

さらに、

- 市内住民との交流
 - ・懐かしい記憶の思い出話
 - ・ノスタルジックな商品と佐須の風土が話題に
- 出店者同士のつながり
 - ・変わった野菜に着目した飲食ブースのシェフ
- 参加地区住民が感じた手ごたえ
 - ・都市の人たちの反応が間近で見られた
 - ・来店者・出店関係者へ広く地区のPRができた

⇒参加地区住民の次回出店への積極的な検討の姿勢!

4-4. 街なかマルシェの課題

13

- 来客者と地区住民、学生のコミュニケーション
⇒会話、関係づくりの大切さ・難しさへの気づき
- 反省点
 - ・商品情報の不十分な把握
 - ・地区住民と学生の綿密な打ち合わせの必要性
 - ・来店者アンケートの必要性
⇒来客者の具体的な情報や関心の把握



- ・来店者により深く佐須地区を理解してもらえる
- ・地区住民の喜び、自信につながる

5-1. までいな休日への参加

14

- 街なかマルシェの報告
「お疲れさまね～」 「ありがとう！」
「いろいろな学生さんがきたけど、何かやってくれたのは初めてだ。」
- 村の人とのつながりの深まり
⇒継続的な活動へ向けて
- 地区住民、参加者で創り上げた「までいな休日」
「関わる人みんなが主役ですから」



5-2. ままでいな休日の様子

15



主なイベント

- 虎捕り山登山／山津見神社周辺散策
- そば打ち体験
- 虎捕り太鼓に挑戦
- 交流会
- 農業祭（餅つき大会／虎捕り太鼓／農産物オークション）
- 青空市場

6. まとめ –半年間の活動を振り返って–

16

□ 地域づくりへの学生の関わり方とは？

「いろいろな学生さんがきたけど、何かやってくれたのは初めてだ。」
「今度の祭りも手伝ってよ！」

- ・ 学生と活動することで活気と積極性が強まった
- ・ 佐須地区住民とのつながりが深まった
- ・ 地域と学生の連携による地域づくりの可能性



□ 佐須流（までいな）の取り組み

「できることから、あわてず、じっくりと」
⇒地域づくりへの取り組みの継続性、発展へ

ご清聴ありがとうございました。

17

